

平成 27 年度 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 京都府

【学校名】 京都府立洛北高等学校

【目標・ねらい】

トップアスリートとともに活動をすることで、より身近な存在として感じさせ、スポーツへの関心を高め、さらに競技力の向上を目指す。また、地元の小中学校にも呼びかけてともに活動し、地域の活性化につながるスポーツとして位置づけ、啓発できる人材育成を目指す。

【実践の内容】

① オリンピアンによる講演会及び実技講習会

講師 中田有紀氏

(本校第Ⅲ類卒業生、アテネオリンピック出場：陸上競技)

演題 「競技で学べ～高校生」

講習会 「動きづくり～速く走るためのトレーニング方法」

② トップアスリートによる講演会及び実技講習会

講師 下川真良氏

(朝日大学ハンドボール部監督、全日本選手として数々の国際大会に出場)「2020

演題 「2020 年東京オリンピック・パラリンピックへ～志をもって～」

講習会 「ハンドボールのトレーニング方法」

【実践の成果】

① 生徒の意識変化などの効果検証

講演会については、トップアスリートの話に熱心に耳を傾け、映像などに釘付けになっていた。また、話の中でも失敗したり挫折したりという経験が力となって今があるという内容に、生徒たちの中に自分たちもできるかもという力がわき、がんばるきっかけとなったようである。トレーニング講習会終了後も、内容について生徒間で分析し合ったり、トレーニングの再確認をしたり、これまでに取り組んできた練習を振り返るきっかけとなった。さらに、講師の方に意欲的に質問をするなど、より自分の競技に活かすために追求する姿が見られ、大変充実したものとなった。

② オリンピズムを踏まえた教育活動の成果

講演会を通じて、トップアスリートから自分たちとは違う次元の話聞くことで、強い選手というのはただ単に強いのではなく、その裏側には計り知れない苦勞と苦悩の日々があっ

たということを知り感銘を受けたようである。またそれとは逆に、自分と同じような失敗をしているという親近感のある話も聞き、遠い存在だと感じていたことも自分にもできるのではないかという想いも芽生えるきっかけとなった。そのことが、今後のあらゆる活動の場面で活かせることが今後求められる姿であり、指導者もそういう活動ができる環境づくりに努めていき、感動の瞬間をともに迎えられるようにしていきたい。